

地区復興まちづくり便りへの意見等

※○番号は第 1・2 回資料で紹介したものの再掲です。

■検討会の進め方・メンバーについて

①	「地区復興まちづくりの会」構成メンバーについてどのような基準で選考しているか知る由もないが、もし、構成メンバーが高齢者又は、高年齢者が主流となっているのであれば極めて不安である。未来のまちづくりを考えるのであれば、担い手である児童生徒の提案が必要不可欠と考える。学校教育の現場に協力を頂き作文などの形で提案を求めたらどうですか？ (60 歳代 男性)
②	『現在各地で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入っています』の表示について、今まで当地区では 1 回も解されること無く経過しており、このことについて地区民の討論をしながら相談していかなくてはならないと思う。行政連絡員、分団の方が積極的に行動してほしい。 (60 歳代 男性)
③	どこでどのように検討会が開催されているのか分かりません。人事では無く積極的に復興に参加させて頂ければと思っています。また、世代別の意見を聞く機会が必要と思われれます。検討会のメンバーになるためにはどうしたらよいのでしょうか？ (50 歳代 女性)
④	向町では、他県や盛岡に一時避難されている方がいます。地区の情報提供や意見募集をしていただき、できれば「地区の会報」を発行してほしいです。 (50 歳代 男性)

■河川堤防・防潮堤について

①	津波により、宮古橋（旧橋）～小山田橋付近までの閉伊川の堤防（南町～宮町地域）を超えての浸水があった。堤防の嵩上げを考えてほしい。非常に不安な気持ちで住んでいる。 (30 歳代 男性)
②	嵩上げ堤防の延長高さ等はあまり賛成できない、時間と費用がかかり過ぎそう。 (匿名)
③	・防潮堤の天端に 2m おき程度にポールを建てて、ワイヤーを張り津波時のガレキ、船、車の流入を防ぐ。 (80 歳代 男性)
4	防潮堤・10.4m であれば安全であると認識して「まちづくり」を行って良いものか疑問がある。何故なら、田老地区の防潮堤は、14.7m と発表されているし、市外では、大槌・赤浜地区は 14.5m と発表されている。宮古市の場合の 10.4m とした根拠は何かわからない。 (検討会メンバー)

■道路・交通について

①	3. 11 災害時には、90 歳の母はトイレの関係から飲水を我慢し、胆石を発症、又、佐原の市営アパートに住む娘は 0 歳児（生後 4 ヶ月）を抱え、ミルクや水、米が底をついた。宮古病院に入院させるのも、佐原に粉ミルク、水、米を届けるのも常安寺の交通規制遮断によって搬送ができなかった。速やかに市街地（消防庁舎）と宮古病院を最短でつくアクセスルートを開設すべきである。 (60 歳代 男性)
②	・山口川を BOX にして、その上を道路にして欲しい。避難道路として利用できる。 (80 歳代 男性)

3	末広町の道路を現在より広くし現在の一方通行を交互通行として、東側（海側）から一直線で西側方面に避難出来るのではないか (検討会メンバー)
---	---

■まちづくりの方向性について

①	安心を与えてくれる町にしたい。(してほしい。) (30歳代 男性)
②	災害に強い街づくりは勿論これからの若い人たちが地元に残り働ける場所の確保、都の歴史。特性を生かした活用を行政におねがいする。 (60歳代 男性)
③	もとの型に戻すのではなく長い将来を見据えての復興を望みます。 (50歳代 女性)
④	<p>いくら防潮堤を高くしても津波、地震の自然の力には人間は勝てない。太古の時代先任達は高台に住んでおり、人災は無かったはず。現代でも賢い方は高台に住んでいる。(檜内、松月、大付)等「現代」車社会になり、3~5分すれば海辺低地から高台に避難できる。道路を整備し、各エリアを決め人が住む所、生産する所を決めなければ新しい町づくりは出来ない。</p> <p>考える基本的な事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、人間の命が大番大切であるんだ。 2、地理的な条件（日本列島の構成） 3、歴史を調べる。 4、自分の物（土地）と言うものはあり得ない。地球上のものは人間だけでなく全ての生き物である。人間の欲望私物化であってはならない。全て世の中人間がする事であって良くするも悪くするも生きている人間が後世の事を考えてやるべきだ。 <p>今すぐやるべき事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、個々人の立ち上がり。町内、分団等各組織の再構築。町無人化しており情報収集連絡等取りようが無い。新しい町づくり検討会がつくられたが機能されているのか？疑問である、行政側は個々人に入り当たってもらいたい。策定までしらみつぶし。 2、市役所の場所と45号大橋106号国道の交互の高潮の関係。 3、高台移転場所置地の確定。 4、街づくりの一番「ガン」末広町。歩道がない一方通行避難路大通りから横町に抜ける道がない。 5、街づくり検討委員会の機能疑問。宮古生まれ、育ちの古老参加望む。 6、町の人口10年もすれば5万人を切ると思う。人口が減れば町はゴーストタウン化する。緑がない空間がない。ぎすぎすしている。この機会に館合から⇒光岸地に道路を拡張してもらいたい。 <p>この本を読んで復興まちづくりを考えてほしい。「志は老いず」 (男性)</p>
5	宮古町の頃からの旧市街地として栄えてきた所と先代達より聞いております。向町、本町、新町等元通りの街に復興できる事を望みます。 (70歳代 女性)

■移転先について

①	新川町は、大潮満潮時は浸水の状況。勿論高台を望むが必ずしも高台とは考えず南西北側と最も職場に近い高台を選択されても良いのでは。通勤時のラッシュも少しは緩和される、因みに職場は津軽石ですが45号線は混んで時間がかかる津波を考えた場合裏街道の道と住宅が安全。
---	---

	かと言って以前住んでいた所から遠く離れがたく中間の八木沢・磯鶏地区が望ましい。高浜、金浜、その南の山はあまり険しくない山並みで平らにして街が出来そう。南・西・北側と三方に移転されても良いのでは、最も町場に近く、分散されても良いかと。小山田（ドラ近くの山）八木沢の山、等の造成、山口周辺の山など（奥の地でもまだまだある。） (匿名)
②	向町は高齢者の世帯が多く高台移転は難しいです。高齢者はやはり市内の平地の場所がよいと思います。比較的津波の影響が少ない小沢、西町、山口方面か近内、千徳方面であれば、高齢者の方でも移転可能だと思います。病院や買い物等に便利です。できれば、向町に建築許可を出してほしいです。それが無理であれば、向町に5階建ての公営住宅を建築して被災地の方を優先して入居させる方法は高台移転よりは高齢者の世帯の多い向町には良い案だと思います。 (50歳代 男性)

■商店街について

①	末広町、中央商店街に挟まれた当商店街は解体が3件、廃業が3件で商店街と言えなくなってしまいこのうち駐車場が2か所になっている。復興、復興とみなさん叫んでいるが私は商店街の復旧が先で中心市街地には食料品等物販の店も僅かで住民がすごく不便しています。店舗等の建築は装柱に検討してください、商店街が並ばなければ復興は遠いものになり賑やかさ戻らないと思う。 (60歳代 男性)
②	末広町に関しては現在の場所を一箇所でも用が済ませられるような街づくり。防災施設を強化しコミュニティを考えた商店街。 (60歳代 男性)
3	中心市街地は、宮古駅を中心とした商業集積地であるので、末広町商店街・中央通商店街・それに付随した商店街を中心に復興を図るべきと思う。商業集積地の復興なくして中心市街地の復興はなしと考える。 (検討会メンバー)

■観光について

①	市街地を賑わう町にするために観光地として魚菜市場を駅の近くに移動し観光客が町をゆったり歩いて、お土産を買ったり、食堂、喫茶店などに入れるようにしてはどうでしょうか。自然エネルギーについて、自然がいっぱいの宮古市の良い所を十分に生かし共に観光の名所にしてはどうでしょうか。川井のタイマグラ、新里地区など色々な素晴らしい所がいっぱいあると思います。 (50歳代 女性)
---	---

■支援等について

①	・建物の構造規制を伴う場合、金銭的補助制度をつくってほしい。 (80歳代 女性)
---	---

■河川対策について

①	1、旧山口川からの危険 今震災で和見町東地区は床上、床下浸水が8世帯位と軽微でした。又、当地区は数年前の大雨による山口川上流の氾濫でも住宅地が冠水しました。旧山口川べりは、直近まで住宅が建築されており対策が難しいと思いますが以下の内容を検討して頂きたくよろしくお願い申し上げます。
---	---

	<p>①川幅の拡張と街づくり 岩見医院後ろから川幅を拡張し、川べりを歩道専用とする。川の北側を住宅地とし、川と旧国道（末広町）を都市計画案にある道路拡張し、道路と川の間を緑地公園とする。南側を商業地として魅力ある商店街を目指してはどうだろうか。和見地区も川幅を拡張か高くかして貰いたい。末広町付近の川幅の拡張や嵩上げがなされれば、当地区もその対策の延長線上で考えられると思います。</p> <p>②防災センターの建設 当地区の避難場所は山口小学校です。しかし、当震災では山口小に避難するには「橋」を渡らなければならず、冠水寸前の状況は危険で3割の住民は合同庁舎や消防署に避難しました。また高齢者や障害者の方にとっても小学校はたいへんでした。また、当地区には会館はなく保久田の市分館を利用させてもらっていますが、保久田、西町、緑ヶ丘等含めての「多目的に利用できる防災センター」建設の検討をお願いいたします。</p> <p>③旧山口川水量調整について 川には小沢等の上流から水と山口川分流調整の役を担っていると思います。また、今震災での上流への可動堰の開閉の問題もありました。現在黒田町や宮古小付近の管の埋設工事を行っているようですが、洪水対策でしょうか。そうだとすると、上流からの危険度は緩和されるとおもいますが、大雨時の旧山口川水量や津波での可動堰調整ほどの部署が行っているのか、また責任はどこか、地区で勝手に調整できるのか等再確認して、関係自治会、住民に明確にしていきたいと思います。 (60歳代 男性)</p>
2	<p>山口川と閉伊川の合流点に、水門を作り、津波を閉伊川上流にそじょうさせると山口川の氾濫を防げるのではないかと。 (検討会メンバー)</p>
3	<p>山口川が逆流し町中にあふれる危険性を小さくするために、山口川と閉伊川の合流地点ー末広町・中央通下を流れる山口川と横山八幡宮のふもとを流れる山口川の両出口に水門状のものを築いて警報発表時に閉じるなどの対策はとれないでとれないでしょうか。津波減災効果と洪水防止効果も期待できる、閉伊川・山口川両堤防の嵩上げと組み合わせれば一層効果的になるのではないのでしょうか。 (40歳代 男性)</p>

■施設・設備について

①	<p>・市役所は交通の利便で適地なので強固なビルにするとあるが、これだけ被害があったのだから利便より安全であることを求めたい。たくさんの人が市役所を利用するということが、津波にまきこまれる可能性は高い。市役所が機能しないと、こまるのは市民。職員がみうごきとれず役所内に缶詰め状態となつては意味がない。津波の来ない安全な場所に移すべきだ。被害のあった同じ場所に建てなおすのはおかしいと思う。 (匿名)</p>
2	<p>地震発生で火災が起きた時に備えあれば憂いなしではないが消防分団が西町、山口、泉町方面にない。これはぜひとも必要。 (60歳代 男性)</p>
3	<p>①被災の原因を検証することはもう終了したのでしょうか。防災無線が各所で地震直後にどう機能したか調査して、大津波警報という緊急情報を伝達した際の問題点を検証する必要があると思います。町中は静で防災無線放送は無かったと言う人もいます。</p> <p>②停電に対処するために自家発電・蓄電装置を持ち、かつ故障を防ぐために免振・耐震構造を</p>

備えている防災無線施設を設置することは出来ないでしょうか。それに加えて広報車を走らせて警報を伝えるという手段も用意しておく、いざとなったら有効かもしれません。

(40歳代 男性)

■中心市街地の地区復興まちづくりに関して、検討会を傍聴された市民の方から以下の提言をいただきましたのでご紹介します。

提言

12月7日、宮古中心地域第二回検討会に傍聴者として出席したが宮古町百年、千年のまちづくりに係わる事なのに、自分のまちだけ考えて発言しており残念であった。

10月7日、中心市街地区復興街づくり会に出て委員選出について異議有りと言ったが、まちの歴史、地理、その他色々知識の無い能力不十分の方、自分のまちづくりしか頭に無い方々が多かったと思う。検討に当たって、当局から情報の提言の提供など主要施設、配置、国道、避難路、雨水排水、計画など出されようだがほとんど検討されなかったと思う。10月下旬、宮古中心街のまちづくりについて提言したが、生かされなくて残念に思う。

基本 宮古中心街の街づくりはどうあるべきか。点と線

1. 点 行政機関 特に市役所、国、県、出先、警察、消防、病院、学校、駅、ライフライン等々。具体的に市役所、宮古高校の跡地へ。嵩上げ。駐車場十分、交通南北東西便利。跡地観光拠点臨海公園、船着場、魚市場まで防潮堤内側、水産加工業、土産など小売市場、築地、新川町、向町（一部）
2. 線 （ルート）西から東へ。館合橋から末広町→築地→光岸地→魚市場→パークホテル。駅前岩銀から末広町→築地→光岸地→魚市場→パークホテル。一方通行解いて道巾を広げ末広町の交通の円滑化を計る歩道が無ければ歩行者の安全は計れない。盛岡で10年程生活したが、内陸の方々が帰り、宮古市場に寄って買い物をしたいが行けない。末広町は宮古市民の物ではない。県民、全国民の物だ！まちの活性化を計るのであれば、末広町の一方通行はまちの「ガン」である。人、車が互いに通行できて道路の意味が無い。

小沢まで3本は必要。（末広町、ぶち抜いて）6mから10m巾であれば良い。アーケード街にして商店、飲食店とする昭和9年宮古駅が出てラサ工業が立地されるまで末広町はなく、田んぼ、畑だった。まちづくり、あせってはならない。

ルート変更関係 45号と106号新川町で交互するが、毎回冠水通行不能となり大問題である。106号ルート変更するか45号と高い所で接続される。又は交差。

3. 高台移転について 館合、山口、長根、鉢ヶ沢、近内、坂本、太田、成ヶ沢地域
磯鷄、小山田、八木沢、松山地域
田鎖、花輪地域

車社会5分～10分もすれば、このエリアから中心地まで来る事が出来る。今の土木技術を持ってすれば重機を使って出来る。国の第3次補正予算が通り復旧が本格化されるわけですが、これから、検討会が2回され、市議会で議決され策定されると思うが「基本的な街づくり」は、災害に強い人命が失われないまちづくりだと思う。

自然の力には人間勝てない。地球誕生から40数億年経っているわけですが、毎日地震があり、日本列島は逆「くの字」に出来ております。日本は地震国です。数年もしないうちに又どこかで災害が発生して死人が出来ます。検討委員の方に本当に宮古市の後世の事を考えているのでしょうか？情けない！まちの基本「点と線と安全」が決定されればまちはおのずとつくられます。良くも悪くもなるのもまちの歴史です。12年1日号広報で10日中心市街地の検討会が開かれるとの事。傍聴ですから発言は出来ません。委員に選ばれた方々は全員出席して後世の宮古まちづくりに悔いのないようお願い致します。私事ですが、三年前脳梗塞で倒れ、書く事も話す事も見る事も聞く事も、字も忘れ体も不自由で正常でなくなり残念で成りません。乱筆、違字、ごめん下さい。